

# 麦の穂

第48号

2014年3月

NPO法人麦の会

題字：かまたみさ

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 TEL (FAX 兼) 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp <http://www.muginokai-koppe.com>

目次	サービス等利用計画はどうなる	飯嶋 茂	・・・1p
	大崎地区東日本大震災上映会	松本 祐一	・・・3p
	2月8日に被災地障がい者センターみやぎが行った、「逃げ遅れる人々」の大崎地区での上映会後のシンポジウムでの松本さんの発言です。		
	樹氷めぐり	斎藤 七恵	・・・6p
	高橋徳治商店を見学して		
		氏家 大介	・・・8p
		阿部 央希	・・・9p
	新聞記事より	河北新報社説	就労支援事業所
			・・・10p
		バラライカ新天地探し	・・・11p
	規格・価格の変更について		・・・12p

## サービス等利用計画はどうなっていくのか

飯嶋茂

障害者総合支援法が成立し、障害福祉サービスを利用するには相談支援事業所によるサービス等利用計画の策定が必要になった。すでに利用をしているメンバーも順次、その作成が義務付けられている。

サービス等利用計画は、総合的な援助方針や解決すべき問題を踏まえ、最も適切なサービスの組み合わせ等について検討し、作成されることになる。日中活動を支援している事業所のみならず、生活・移動・余暇等のサービスを行っている機関も連携して障害当事者の生活を豊かにしていこうとするものと理解している。

仙台市においては、先日、やっとその説明会が開かれた。

その内容は、サービス等利用計画の作成状況は、まだ全体の5%ほどでしかなく、相談支援事業所が少ない現状を説明したうえで、相談支援事業所を立ち上げてくれる事業所を募集します、当面はセルフプランでもかまわないというもの。

なんのためにサービス等利用計画を作成するのかという説明も何もないまま、制度がそうってしまったのだから、とにかくそれに対応してくれという感じだ。

これでは、とりあえず大きい法人は相談支援事業所を立ちあげるが、結局は、自分の法人内の事業所が互いの障害メンバーの計画を立てっこするだけだ。相談支援事業所をもてない法人は、セルフプランで当面は対応するしかないだろう。

2月23日、宮城県障害者小規模施設連絡会として、全日本手をつなぐ育成会の常務理事の田中正博さんをお呼びし、サービス等利用計画も含めた相談支援の研修を行った。当日は、日曜の午前中にもかかわらず30名以上の方が参加された。いつもは20名程度の参加者だから、いかにこの問題に対する関心が大きいかがうかがわれた。

田中さんのお話のなかで印象に残ったのは、サービス等利用計画を作る際には、時間軸を意識することが重要だということ。当事者が10年後、20年後、どのような生活をするようになるのかを考慮する必要があるということだ。そのことは高齢化との関係で重要になる。本人が加齢により支援の必要度が多くなると同時に、家族もまた高齢化するわけであり、それによる環境の変化も意識しておく必要がある。

もうひとつ、相談員の仕事の重さ、大きさも相当なものになると感じた。「トータルで支援する」となるといいことも悪いこともプライバシーにかかわることも引き受け、各機関のコーディネートもするわけだから。アセスメントを行うだけでもやるべきことは多岐に渡る。そして、定期的なモニタリング。それを考えると、報酬単価は高くはない。

先述したように仙台市においてはかなり取り組みが遅れている。計画相談が本来の意味を発揮するのは相当時間がかかるだろう。コッペでもまずはセルフプランからだろう。

しかし、日中活動の事業者だけでは、トータルの支援はできないのも事実。ましてや、高齢化には対応できない。

田中さんはお話のなかでレスパイトの活用にも言及されていた。緊急の利用ではなく、「自立」へむけた体験としての利用だ。

相談の充実とそれを支えるサービスの充実。

自分たちが提供している日中活動だけで精一杯のところも実際はあるが、他のサービスとの連携もっともっと模索していきたい。

大山奇土世区 2011.3.11 東日本大震災 災上日央会

CILをすけつと会員 松本ネ右一

本日もおいそがしい戸介、2011.3.11 東日本大震災 災上日央会におこしいをだきましてありがとうごさいます。

2011.3.11 東日本大震災 災がさまもなく3年にかりますがこのことについてご報告致します。

2011.3.11 14:46の大震災 災時は大山奇市岩出山土世区は、みやぎアピール大行重力大集會のこの案内届にイ行って岩出山駅の列車に乗りました。その時、土家目駅を出発後に大きなゆれが

その時は2時間以上列車内にとまをじようたいで、土家目駅から松山町駅までは歩いて行

自宅に3時間以上かけて松山町駅から自宅まで、は自転車でのいどうも含めてこの00頁に

大山奇市松山土世区の自宅に無事つきました。その日18:00~22:00に全国ネット白の專業戶所共同連団体大阪府、愛知県名古屋市が

けいらいTELがかりました。大震災波けいほうが出ていることをかんじてこのTELでしたか不通じようたいで10回以上おり

がえしのTEL致しましたが通じませんでした。大震災から1週間後みやぎアピール大行重力大集會事務局、仙台市麦の会、コッパ飯山鳥茂さんの着信りれまがかりましておりがえしのTEL致しました。

その結果「3.20 みやぎアピール大行重力大集會は大震災 災のため中止です。」という回答でした。

次に愛知県名古屋市と大阪府にもTEL  
 致しました。致しました日は安心致しました。  
 TEL連絡各致しました日は安心致しました。  
 電念にフては3/18の早朝目が回すくして  
 3/11~3/27まで水ぼうがストップのために大崎  
 松山土せ区そう合支所までペットボトル等で  
 水くみにに行きました。  
 がスについては不明で分かりませんでした。  
 4/1にCILたすけと入無事にフてごあり。  
 きつは行きました。  
 全国から大震災のおうえんに来てくださることを  
 見ても本当にありがたい所ありがとうございます  
 いまですと思ひます。

2011、7月全国社会白勺事業所共同連東京  
 者大会打ち合もせ会に行つた日は震災のおうえん  
 いただきましてありがとうございます。  
 と言ら立上場で行つて来ました。  
 当日は旧たけで指定席2回まで可のうな大震  
 災パス10000円のトクトクきっぷがありましたので  
 日帰り東京までごあいさんに行って来ました。

共同連全国大会では宮土成県大会2010年度  
 から新がた県大会2013年度まで4年間障がい者  
 京大労ワークショップの分科会の担当もやって  
 来ました。  
 全国参加者もかなり高まって来る事が出来  
 ました。

万が一今後大きな大震災しそかえること  
 け京大労活重が、障害福祉サービスに行く時  
 かならずけいをTEL、けいをかめ充電器、けいなり  
 TELコンソート台はかならずけい、障害者福祉手帳  
 けんコン保けい、よきんつなう、はんこ、家さくの連絡各先  
 等は必ずかくましよう。

-NO.2-

震災当日はJR、バス等でストップしてとほでる日時間  
以上大山崎市古川～大山崎市木谷山までくぐり  
夜道だっ左場所歩いた日はかなり電気が  
もついていかり、道も暗かっでこぼこぼこなっていた  
ためにかなり大変でした。  
何か帰之れたのこのうちの母はくぐり中おし  
いのせいでいりせいでいりしてしまいました。  
うちの父は東京都で出張中でした。3/15～3/16 かけ  
でもどっこ来ることか時間かけてもどっこ来る  
ことが出来ず家ぞく全員無事でした。

最後にあります。3/11、3/20 両やぎんび  
ル大行重が大集会が大震災で中止致しました  
たが7ヶ月ぶり10、10に3、11東日本大震災ふっ  
ころ大集会としておくれと開きしすることが出来  
ました。  
これから先障害がい者さ合支ます法のために  
今年度も9月～11月の間で日ていにつけては未定で  
すが一人でも多くの方にもご参加の方をおい  
そがしいと思ひますがこれかからもよろしくお願  
ひ致します。

2014.2.8  
CIL 左すけと会員 松本ネ右一

# 樹氷めぐり



斎藤七恵



今まで、生で見た事のない  
物、樹氷を見て来ました。

テレビでは、見た事あった!!  
けど~~~~> 本当に目の前に  
したら、うわ〜 凄ご〜い  
本物のモンスターみたい  
なくらい、凄ごがたです。  
雪上車のガイドさんが  
楽しかったです。乗ってる

時間が長かったし、ぐら  
ぐらゆれるし、早く降り  
た〜いって思っていました。  
でも雪上車のかいどさんが  
色々話してくれて、みん  
な楽しそうにしました！  
コッペのクッキーの話しを  
した時は、嬉しかったです。  
澄川スキー場にコッペの  
クッキーが置いてくれる  
事に、みんながコッペのクッキー  
も食べてくれるんだなあ  
本当に本当に嬉しく思いました。

氏家 大介

2月10日にコッマンレインおはりの  
みなさんと一緒に東木公島へカマホ  
工場に見学に行ってきました。  
カマホ工場がひきるところお見ました。  
すこいなどお見しました。  
冷凍室にもお見してきました。  
とてもさむかった。  
おはなしもたくさんお見しました。  
キリンの屋敷見学もしました。  
ツイタケをついているところもみしました。  
おがくすいにはキノコの菌糸をうすつけて  
いるところもみしました。キノコハウスがたたく  
あってすこいとお見しました。  
はたけにもお見しました。  
おさいもたくさんお見しました。

衛生管理の勉強として  
高橋徳治商店さんの見  
学に行きました。その時  
の感想です。

厳しい中 本物の蒲鉾の会社

「大事に蒲鉾はプロの技を見て丁寧に」  
作っている達人がとても仕事もたくましい  
職人の早さ、強くない蒲鉾の皆は  
スペースもあって真面目にやっていました。

厳しい時もプロ達の仕事流れもうまく  
できてバカら思っています。元々強る人も  
いるしたくましいかっこいいです。これが其本に  
できるように蒲鉾事命かけて続くように  
本物の会社になってほしいです。

# 1/27 就労支援事業所

販路や取引拡大などが少しずつ進んできた結果と言えるだろう。自立を目指す障害者が働く就労支援事業所の工賃が、宮城県内で上昇してきた。

県の調査によると、2012年度の月額平均は1万7173円に上った。前年度の1万5000

日本大震災の被災地支援の広がりを。県内では津波被害を受けたり受注減に陥ったりした事業所も少なくない。こうした苦境を踏まえ、被災地の障害者が作る製品の購入機運が高まった。縫製事業を手掛ける仙台市の事業所

仲介役を果たしている。工賃アップをめくっては13年4月、「障害者優先調達推進法」が施行された。国や自治体が障害者施設の物品などを積極的に購入する動きが出てくるとみられる。

ゴのスパークリングワイン造りにも協力している。田口ひろみ施設長は「工賃アップは2番目。地域貢献が最大の目標。復興はまだ見えず、私たちは物語を紡いでいかなければならない」と言い切る。

ただ自治体は工賃アップだけの支援に終わらせてほしくない。「地域再生」のパートナーとして就労支援事業所を育てる

このほか、宮城県利府町の事業所がワカメの養殖から加工、販売まで手掛けるなど「地場産業の活性化」に乗り出すケースは少なくない。

## 地域再生の視点で育てよう

66円から2107円(14.0%)アップした。

県が策定した「工賃向上支援計画」(12、14年度)で初年度の目標とした1万6000円をクリア。計画期間のさらに先の将来目標4万円との差はまだまだあるものの、11年度までは数百円程度の上昇にとどまっていただけに伸びはまずまずです。

工賃上昇の理由の一つは、東

は福岡県内の生協からウエストポーチの生産を依頼された。中間支援組織による積極的な活動も見逃せない。

NPO法人みやぎセルブ協働受注センター(仙台市)は事業所の商品を集めた販売会、商品開発で助言するアドバイザー派遣などを展開。給湯器のリサイクルでは複数の事業所が受注できると、大手メーカーとの

視点を持つべきだろう。震災で大きな被害を受けた宮城県山元町にある「工房地球村」の例は大いに参考になる。

こうした取り組みは農林水産物を生かした6次産業化を目指す自治体の方針とも合致する。食品以外にも地球村の手ぬぐいのように「地域ブランド」の創造につながる可能性がある。

震災後に始めたプロジェクト「いちごものがたり」では、奈良市のNPOと連携し、町特産のイチゴをモチーフにした手ぬぐいを商品化。震災で中断したジャム製造の再開に加え、地元農業生産法人が開発したイチ

就労支援事業所の多くはギリギリの職員で対応している。奮闘する事業所を地域の担い手としてどう育てていくか。商品開発や販路拡大に向けた営業や企業との連携促進など支援の形はさまざまある。

2014・1・27



## 規格・価格の変更について

ここ数年続く原材料価格の上昇傾向に加え、4月からの消費税増税もあり、クッキーの規格を以下のように変更させて頂きたいと思っております。

\* 現行100g入りを、90g入りに変更。価格に変更はありません。

バタークッキー	ごまクッキー	紅茶クッキー
ネグロスクッキー	コーヒークッキー	コンコンブル
黒ごまスティック	ジンジャークッキー	おにみそクッキー

\* 変更なし(現行通り)

ココナツクッキー	ココアクッキー	お茶クッキー
くるみチョコクッキー	オリーブオートミールクッキー	
おからクッキー	ザータルスティック	

\* パンについては、おおむね5円の値上がりになります。

食パン	265円		フランス	205円	
あんパン	130円		りんごパン	120円	など

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。

## あとがき

☆今年度も、一般社団法人 仙台建設業協会様より、寄付金を頂きました。ありがとうございました。また、多くの個人の方々からも寄付金を頂いています。大切に使用させていただきます。

☆東日本大震災以降、被災地の福祉事業所の製品を販売することで支援を続けてきてくださった「ミナDEカオウヤプロジェクト」が、この4月で終了することになりました。本当に苦しいときに、各地の皆さんとつながって、たくさんのクッキーを取引して頂きました。クッキーのお試しサイズの3枚入りは、ミナDEカオウヤプロジェクトさんからの提案で実現しました。改めて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

☆東日本大震災から3年がたちました。あっというまです。とても一言では言い表せない思いがあります。これからも多くの人たちとのつながりを大切にしながら、歩んでいきたいと思っております。

飯嶋